

私達ロータリー野球もそうなのですが、試合前後に両チームが向かい合って脱帽し、一礼します。そのルーツは仙台が発祥と言われています。

提唱したのは東北大学の前身の一つ旧制第二高校のようで、1911年まで遡ります。最初は挨拶が行われたのが、第一回東北六県中等学校野球大会が始まりと言われています。第二高は明治中期に米国人教師が野球を伝え、当時は東北の野球普及の中心的存在だったようです。日本ではその頃、学生の間で盛んになっていた野球を巡り、「勉学が疎かになり堕落する。成長に良くない。」といった反対論が起き、当時の新聞も「馬術や柔道などは奨励するが、野球は必要ならざる遊戯。対外試合を禁止した。」と反対キャンペーンを繰り広げていたようです。

そうした中、大会開催に奔走していた第二高校野球部、学生野球の健全さをアピールしようと腐心し、「礼に始まり、礼に終わる武道の美德を野球に持ち込もう」と思いつき、仙台の中等野球大会の一か月後、第二高は京都で開かれはじめた旧制高校の全国大会でも、試合前の挨拶を提案し、実現させたようです。

そして4年後の1915年第一回全国中等野球大会がこれを採用し、その後、甲子園から全国に広がりアマチュア野球の日本独特のスタイルとして定着しています。

また、私事の話になりますが、大阪大会ベスト16で興国高校に敗れ、その興国がベスト8で明星高校に延長12回で敗れ、甲子園には大阪代表明星が出場しました。レギュラー9人のうち、5人が明星中学出身で、中学時代彼らと3度対戦し、2勝1敗でした。大学3年のとき、早稲田と大阪の日生球場でナイターの練習試合があり、早稲田がバッティング練習の時、ボール拾いしていた明星から早稲田に進学していた選手と6年ぶりに会い、試合が終わった後、ホームベース上に整列し、一礼をした後、元気でなと声を掛け合い別れた45年前の学生時代の試合前後の挨拶を思い出しました。

第17回大阪中学校優勝野球大会(於日生球場)

